（様式１－１）

① 申請者	◎群馬県（桐生市、甘楽町、中之条町、片品村）	② タイプ	地域型　／（シリアル型） A　B　C　D　E

③ タイトル

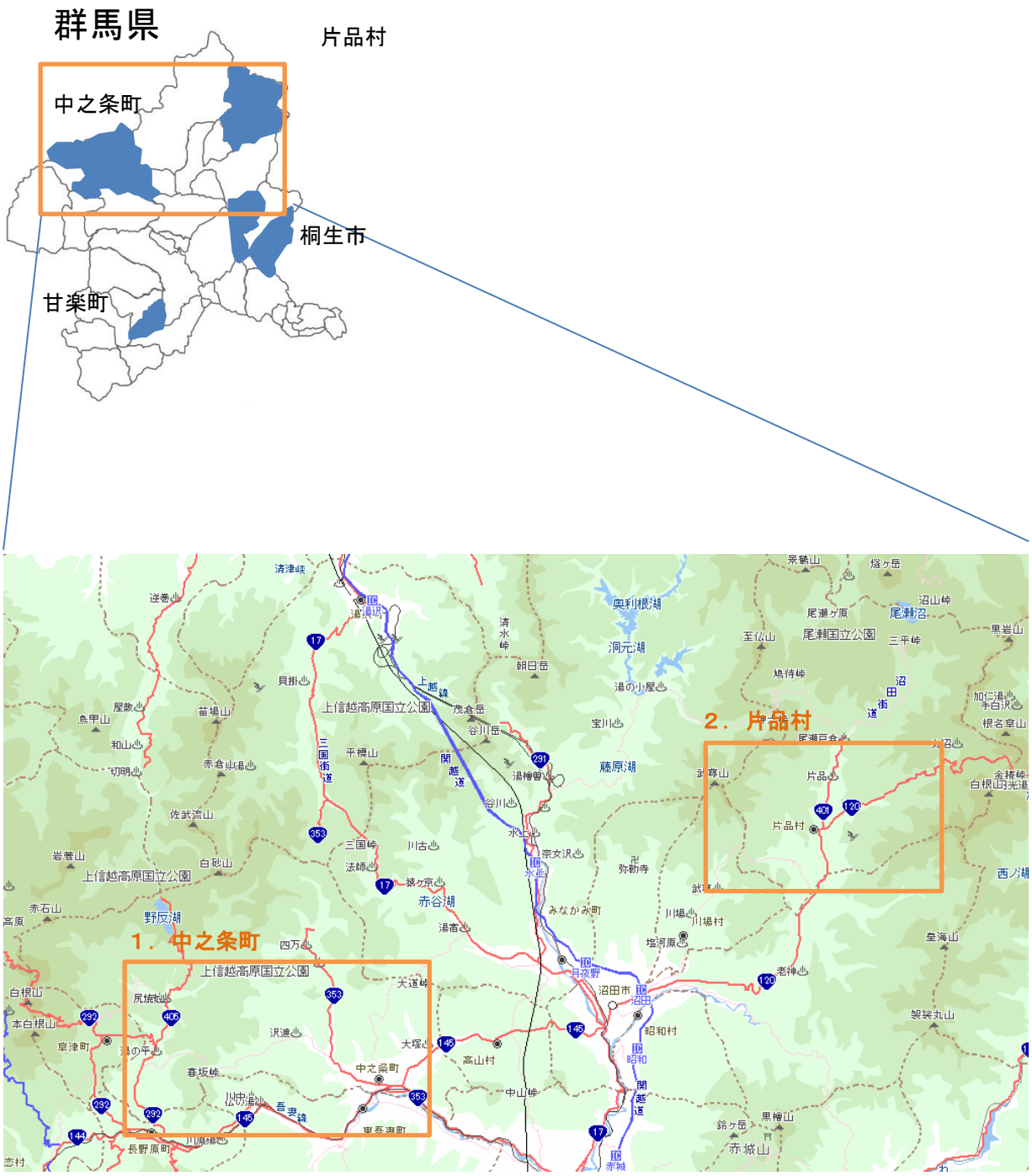
かかあ天下ーぐんまの絹物語ー

④ ストーリーの概要（２００字程度）

古くから絹産業の盛んな上州では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女や織手としてますます女性が活躍した。夫(男)たちは、おれの「かかあは天下一」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になるとともに、現代では内に外に活躍する女性像の代名詞ともなっている。

「かかあ」たちの夢や情熱が詰まった養蚕の家々や織物の工場(こうば)を訪ねることで、日本経済を、まさに天下を支えた日本の女性たちの姿が見えてくる。

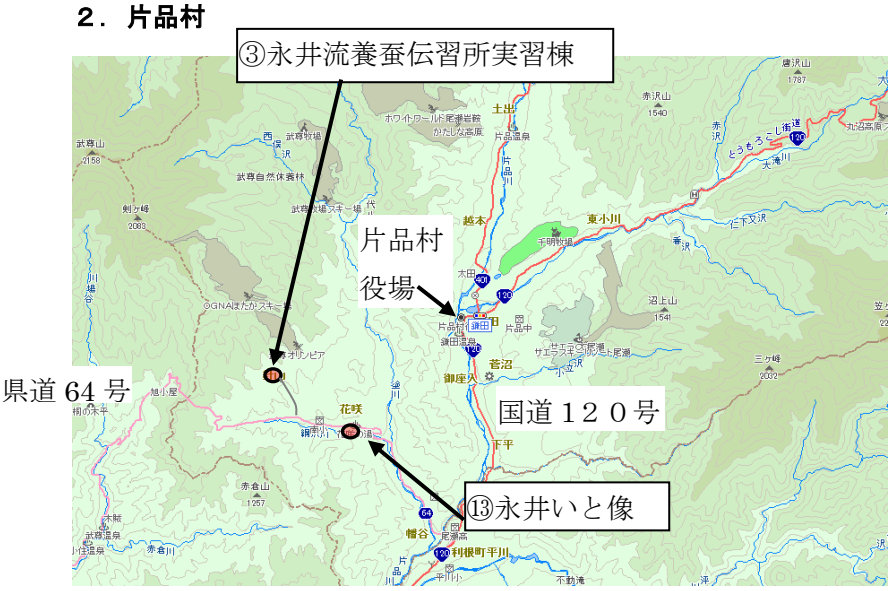
市町村の位置図（地図等）



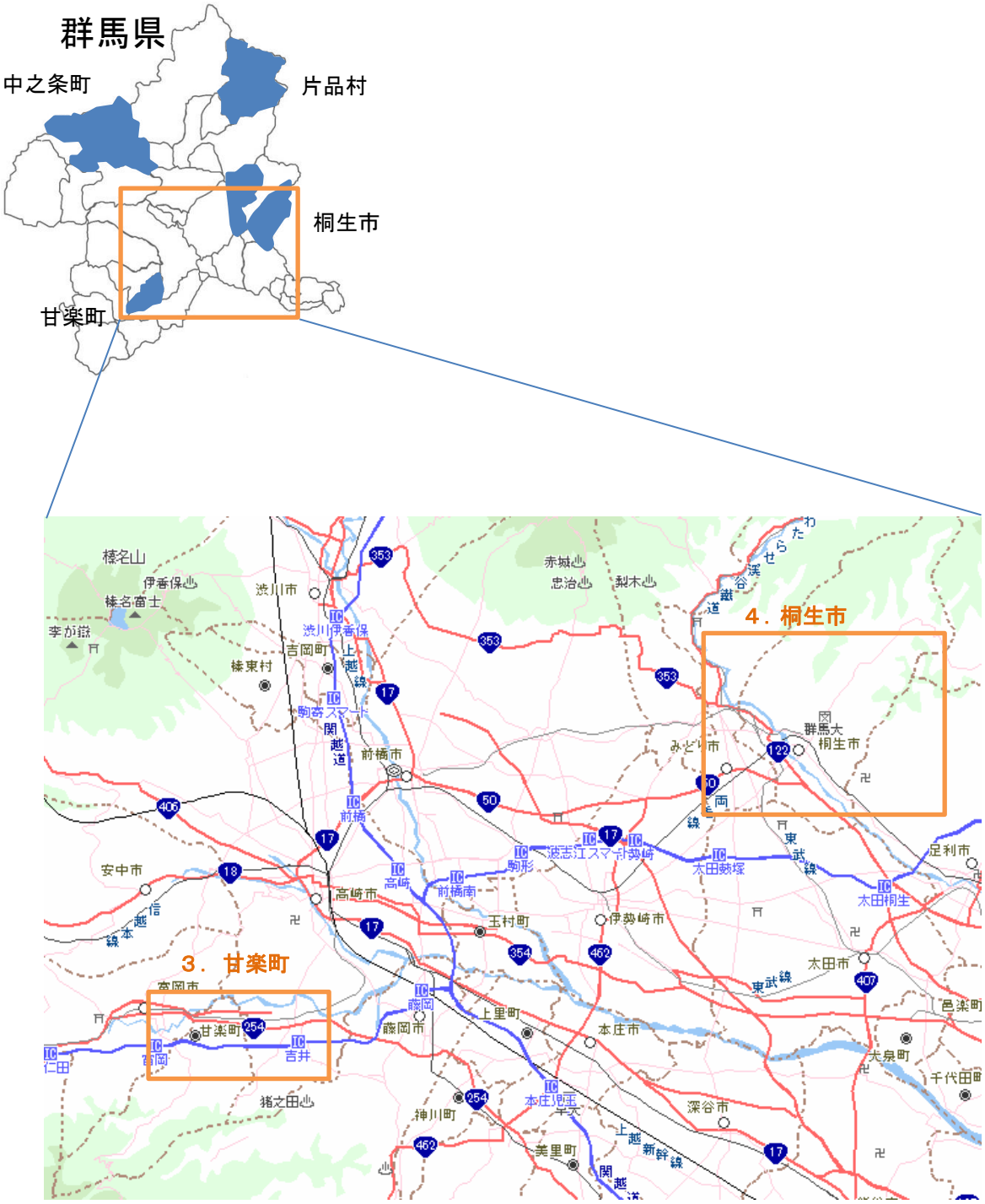
構成文化財の位置図（地図等）

１．中之条町

２．片品村

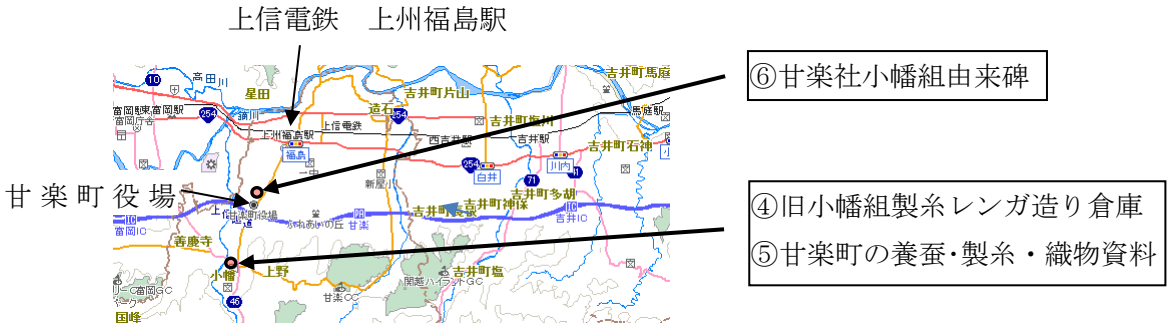


市町村の位置図（地図等）

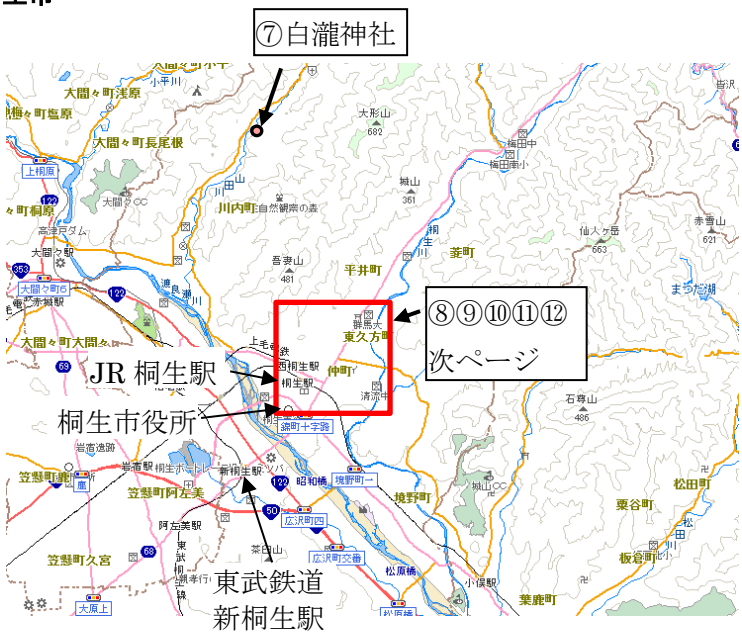


構成文化財の位置図（地図等）

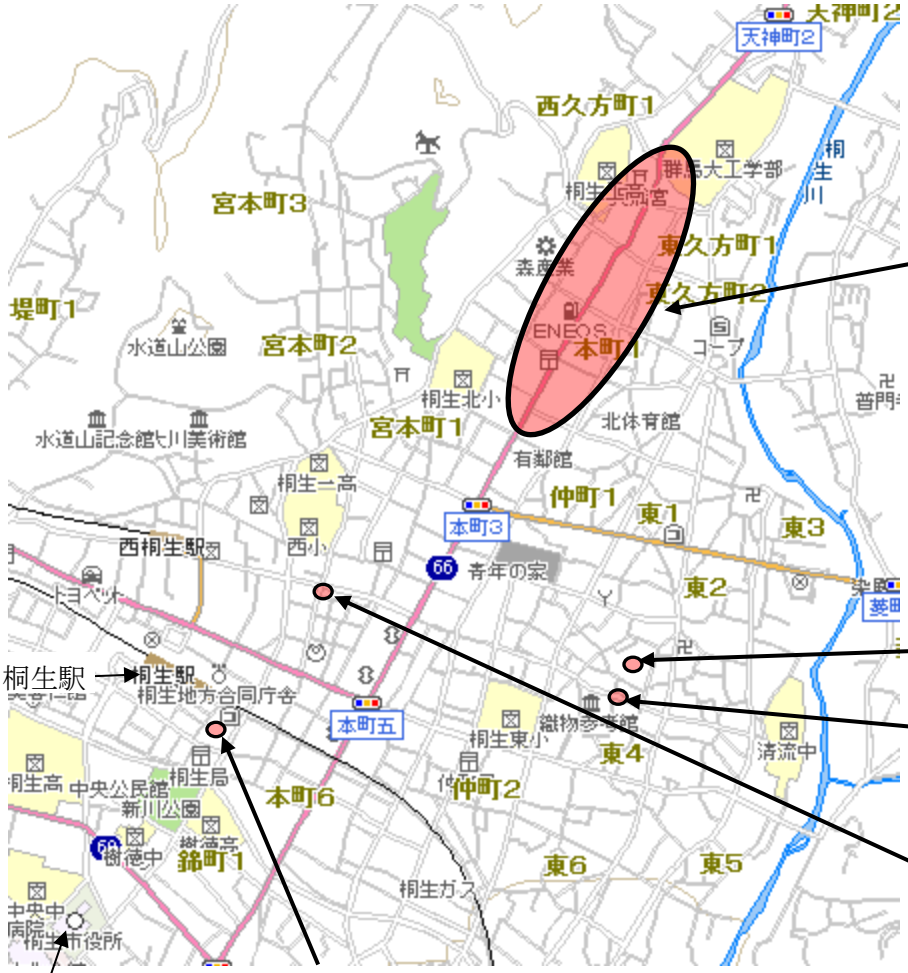
３．甘楽町



４．桐生市



（様式１－２）



⑨桐生市桐生新町
伝統的建造物群
保存地区

⑩後藤織物

⑪織物参考館“紫”

⑫桐生織物会館旧館

⑧旧模範工場
桐生撚糸合資会社
事務所棟

ストーリー

上州の農家には、大切にしまわれてきた絹の着物が眠っている。代々の女たちが、蚕を育て、糸をひき、布に織り、着物に仕立てた、晴れ着や婚礼衣装である。すべての技術は母から娘へ、地域の女達から少女達へと脈々と継承された。上州の女たち（かかあ）は、この養蚕・製糸・織物の力で家計を支え、家族の衣をつくった。男たち（夫）は、この働き者の女たちを「おれのかかあは天下一」と自慢し、上州名物は「かかあ天下」となった。美しい絹が織りなされる物語をたどると、日本独特の繊細なモノづくり文化とともに、誇りをもって家を支えた上州の女たちの姿が見えてくる。

機（はた）の音、製糸の煙、桑の海

絹は、蚕という虫が作る繭から作られる。蚕は繊細な虫で、「お蚕（こ）さま」と呼ばれ、子どものように、家の中で大切に育てられた。蚕の世話は、家の中を切り盛りする女たちの重要な仕事である。特に、成長期には寝る間を惜しんで蚕に桑の葉を食べさせなければならない。女たちは、蚕の世話、他の農作業、食事作りと休む間もなく働き、農家の働き手の中心として活躍した。

そして、幕末から明治へ、上州が群馬県と変わる頃、絹が主要な輸出品として外貨獲得の切り札となると、県内の養蚕・製糸・織物はますます盛んになった。明治の文豪、徳冨蘆花は当時の群馬県の様子を**「機（はた）の音、製糸の煙、桑の海」**＊と詠んでいる。この時代の流れに乗って、上州の女は益々活躍の場を広げるのである。＊徳冨蘆花の随筆「上州の山」明治 32 年

農家の財布の紐はかかあが握るべし

明治５年「富岡製糸場」が創業し、全国から少女たちが製糸工女として、また地域からは大量の繭が原料として、富岡に集められた。このような時、片品村の養蚕農家に嫁いだ「永井いと」は夫、紺周郎とともに繭増産のための養蚕技術の改良に挑み、夫亡き後もその意志を継いで、遂には永井流養蚕法の伝習所を設立した。いとは自ら教壇に立ち、講義の中で**「農家の財布の紐はかかあが握るべし」**と説いたという。農家の現金収入源である養蚕で、女性が活躍していたからこその言葉である。

邑ニ養蚕セザルノ家ナク製絲セザルノ婦ナシ

やがて、女たちは養蚕や繭作りだけでなく、繭から糸を繰り出す技術（座繰り繰糸）にも磨きを掛けていった。このような農家は、組合製糸という形で共同して生糸を販売するようになり、糸の品質でも、生産量でも器械製糸に劣らず、日本の経済を支える存在となった。組合製糸を代表する甘楽社の碑には、**「邑ニ養蚕セザルノ家ナク製絲セザルノ婦ナシ**（村で養蚕をしていない家はなく、製糸をしていない女はいない）」とあり、まさに上州の女たち（かかあ）の活躍が印されている。彼女たちは、生糸を売って現金収入を得る傍ら、自家用の糸を少しずつ確保し、機織りをし、自分や家族の晴れ着を仕立てることも忘れなかった。そして、その着物と技術とを代々引き継

永井いと

いでいくのである。

西の西陣、東の桐生

日本製の生糸が世界を席巻するなかで、また、絹織物も発展していった。桐生は江戸時代から**「西の西陣、東の桐生」**と言われるように高級な絹の織物産地として知られていた。この桐生を支えたのも機織り女と呼ばれた周辺の村から集まった女たちであり、織物を伝えた白滝姫を祭る神社には、多くの機織り女が、織物の上達を願ってお参りした。

明治に入るとこの桐生の町並みには、ノコギリ型の屋根が特徴的な織物工場が数多く建てられていった。その中でさらに多くの女たちが織手として活躍した。また、撚糸*、染色、機拵え**にも女性たちが従事した。彼女たちが仕事の合間に外食をしたり銭湯に行ったり、お気に入りの着物や、時には洋服を着て歩いたりした町には、女性たちが活躍した足跡、商家や工場の町並み、その奥には寄宿舎や銭湯もしっかりとのこっている。桐生はそんな近代の女性たちの生活をずっと見つめてきたのである。*織物の種類に合わせて糸によりをかける作業。**紋織りのための準備作業。

現代の群馬にも、日本の絹織物の技術や文化が受け継がれている。農家の女性たちが生産に励む傍ら、自分や大切な家族のためつくった着物は、今でも大切に保存されている。織物の桐生には現在でも熟練の女性職人が働く現役の工場がある。日本伝統の美しい着物を着ること、そして懐かしい農家や織物の町並みを訪ねることで、日本を支えてきた「かかあ」たちの心に触れることが出来る。

「かかあ天下―ぐんまの絹物語―」は、家族と地域を、そして日本を支えてきた女性「かかあ」たちの姿を、実際に、蚕に触れたり、繭から生糸をひいたり、絹布を織ったりして、体感していく物語である。

女性が絹の生産で活躍した家々。

機の音、製糸の煙、桑の海

富沢家住宅、中之条町六合赤岩伝統的建造物群保存地区

女性養蚕指導者「永井いと」の功績を物語る建物

農家の財布の紐はかかあが握るべし

永井流養蚕伝習所実習棟

女性たちが座繰りでひいた糸を集め、輸出した組合製糸の代表的遺産。

旧小幡組製糸レンガ造り倉庫、

臣ニ養蚕セザルノ家ナク製絲セザルノ婦ナシ

甘楽町の養蚕・製糸・織物資料、甘楽社小幡組由来碑

織都桐生で、織物伝来の伝説を物語る神社から、今も女性が働く工場まで巡る。

西の西陣、東の桐生

白瀧神社、旧模範工場桐生撚糸合資会社事務所棟、

桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区、後藤織物、織物参考館“紫”、桐生織物会館旧館

（様式３－１）

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称（※１）	指定等の状況（※２）	ストーリーの中の位置づけ（※３）	文化財の所在地（※４）
①	富沢家住宅（とみざわけ）	国重文 ぐんま絹遺産	江戸後期の大型養蚕農家で、地元の村の名主を代々つとめた旧家である。運送業や金融業を行う一方、女性たちによる養蚕による功績は大きい。	中之条町
②	中之条町六合赤岩伝統的建造物群保存地区（なかのじょうまちくにあかいわ）	国重伝建 ぐんま絹遺産	明治後半から昭和中期にかけて養蚕が盛んに行われた地区で、集落の発展は養蚕や織物等で生計を支えた女性たちの活躍による所が大きい。	中之条町
③	永井流養蚕伝習所（ながいりゅうようさんでんしゅうじょ） 実習棟（じっしゅうとう）	村重文 ぐんま絹遺産	永井いとが、亡夫紺周郎の遺志を継いで設立した、永井流養蚕法の伝習所。講義の中で「農家の財布の紐はかかあが握るべし」と説いたという。	片品村
④	旧小幡組製糸レンガ造り倉庫（きゅうおばたぐみせいし）	町重文 ぐんま絹遺産	大正 15 年に甘楽社小幡組製糸工場の繭倉庫として建設されたレンガ造りの２階建ての建物。養蚕農家各家の女性が中心となって座繰りでひいた生糸をもちよって、作業場で品質をそろえて共同販売した。	甘楽町
⑤	甘楽町の養蚕・製糸・織物資料（かんらまち　ようさん　せいし　おりものしりょう）	ぐんま絹遺産	大正初期には約７割の世帯が養蚕農家だった甘楽町で使用された養蚕・製糸・織物に関する道具や資料333点。	甘楽町
⑥	甘楽社小幡組由来碑（かんらしゃおばたぐみゆらいひ）	町重文 ぐんま絹遺産	大正６年３月に甘楽社小幡組組合員が、歴史を後世に伝え、益々の隆盛を図るため、小幡組由来碑を建設した。この石碑には、「邑ニ養蚕セザルノ家ナク製絲セザルノ婦ナシ」とあり、当地域の養蚕業と、それをけん引してきた女性達の関わりを伝える貴重な史料。	甘楽町
⑦	白瀧神社（しらたきじんじゃ）	ぐんま絹遺産	桐生地方に絹織物の技術を伝えたとされる白瀧姫を祀る神社。この織姫の伝説は江戸時代に確立し、絹商人や機織り女たちの信仰を集めた。	桐生市
⑧	旧模範工場（きゅうもはんこうじょう） 桐生撚糸合資会社（きりうねんしごうしがいしゃ） 事務所棟（じむしょとう）	市重文 ぐんま絹遺産	明治から戦前まで稼動した大規模撚糸工場であり、工場内に学校を設置するなど女工に技術と教育を施し、会社が発展した。戦前の様子が動画に残っている。	桐生市
⑨	桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区（きりゅうしきりゅうしんまち）	国重伝建 ぐんま絹遺産	桐生織物の中心地として経済発展を支えてきた地区。商家と共に織物工場や寄宿舎、銭湯などが残り、工場の形態や女工の暮らしが偲ばれる場所。	桐生市

⑩	ごとうおりもの 後藤織物	国登録 ぐんま絹遺産	明治初期に洋式染色技術を導入し、織物の改良を行った工場。現在も帯地など織物生産を行っており、熟練の女性従業員が従事している。	桐生市
⑪	おりものさんこうかん 織物参考館 “ゆかり” 紫	国登録 ぐんま絹遺産	高級織物であるお召しの技術を今に伝え、織物会社とともに織物資料館を運営している。手織り機などの道具を公開し、女性従業員による説明や実演を行っている。	桐生市
⑫	きりゅうおりもの 桐生織物 かいかんきゅうかん 会館旧館	国登録 ぐんま絹遺産	桐生織物向上のために設立された桐生織物同業組合の事務所。かつて女子職員が電話交換手やタイプライター事務員などを務め業務を支えていた。現在は織物記念館として織物資料展示や物販が行われている。	桐生市
⑬	ながい 永井いと像	ぐんま絹遺産	永井いとは、夫紺周郎と共に永井流養蚕法を開発。夫亡き後に伝習所を設立し、養蚕法の講義の中で「農家の財布の紐はかかあが握るべし」と説いたという。 かかあ天下の象徴的な人物。	片品村

（※１）文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

（※２）指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等）。

（※３）各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

（※４）ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

① 富沢家住宅

② 中之条町六合赤岩
伝統的建造物群保存地区

③ 永井流養蚕伝習所実習棟

④ 旧小幡組製糸レンガ造り倉庫

⑤ 甘楽町の養蚕・製糸・織物資料

⑥ 甘楽社小幡組由来碑

⑦　白瀧神社

⑧　旧模範工場桐生撚糸合資会社事務所棟

⑨　桐生市桐生新町
伝統的建造物群保存地区

⑩　後藤織物

⑪　織物参考館“紫”

⑫　桐生織物会館旧館

⑬　永井いと像

（拡大）

（様式４）

日本遺産を通じた地域活性化計画

（１）地域活性化計画

①　将来像（ビジョン）

群馬県には、絹に関する遺産が数多く遺っているだけでなく、養蚕・製糸・織物のすべての段階の産業が現在も脈々と受け継がれている。そして、その最前線では元気な女達が今も産業を担っている。こういったユニークな地域の姿を日本遺産(候補)「かかあ天下―ぐんまの絹物語―」としてくっきりと示すことにより、この地域の独特な絹文化を地域の人々がはっきりと自覚し、元気な「かかあ」の笑顔があふれる地域づくりを行う。さらにこの特色ある地域を国内外の多くの人々に訪れていただき、群馬が誇る絹の文化と女性達の活躍の物語に触れていただくことで、日本女性の力と気概を示す。そして、来訪者滞在時間の長期化、群馬の繭･生糸･絹のブランド化、蚕糸業の継承、絹を活用した製品の開発販売の促進等を通じ、地域に誇りを持つ住民が活躍し関連産業も活発な地域とする。

②　地域活性化のための取組

人から人に伝える

○「かかあ」たちの「ぐんまの絹物語」を継承し、国内外に向けて地域の魅力を発信する。

群馬県内に脈々と受け継がれてきた養蚕・製糸・織物の歴史と文化を将来に伝えるため、現役養蚕農家や織物の映像記録及び養蚕・製糸・織物経験者の方々の体験談等を記録し、広く情報発信する。情報発信は、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」と連携して行うが、世界の絹産業の発展に貢献した世界遺産に対して、「かかあ」を中心とした庶民の家族の物語として、アピールしていく。

【主な取組イメージ】

・現在と過去の養蚕風景の映像記録をＤＶＤ化し、情報発信に活用する。
・座談会形式で養蚕・製糸・織物経験者たちの体験談を聞き取り、その内容を書籍にする。特に農業と家事の両面を担った女性の視点で編集する。
・女性の視点から編纂した蚕糸業史の作成
・共通パンフレット作成、ポータルサイトの開設

○絹の歴史や文化を知識だけのものに終わらせないため、体験･体感を主体とした遺産とする。

養蚕・製糸・織物経験者が自ら語り部となるとともに、若い世代のボランティアも育成し、来訪者へのガイド、養蚕・製糸・織物体験の指導を行う。

【主な取組イメージ】

・養蚕・製糸・織物経験者の座談会参加者（特に女性）などを含めた、体験指導ボランティアの掘り起こし
・既存のガイドの会や歴史学習の会などのメンバーを対象とした研修による遺産ガイドのスキルアップ
・体験指導ボランティア及び遺産ガイドの活動を自立的に継続させるため、その組織を育成。

物語を体感するための整備

〇構成文化財の整備や展示・体験設備を充実し、遺産の価値の理解と魅力の向上を図る。

構成文化財の公開のための整備を行う。展示や体験の場として、構成文化財だけでなく、周辺の空家や公共施設、小学校の空き教室等も活用する。

【主な取組イメージ】

・「赤岩重伝建」の中にある空屋の整備による座繰り体験や組紐作りの場づくり
・「永井流伝習所」周辺施設を活用した、女性の活動に関する講話開催と養蚕の展示・体験
・「甘楽社小幡組由来碑」の覆屋設置（覆屋は碑文の現代語訳や当時の写真等により、学習の場、観光の回遊拠点としても活用する。）
・養蚕・製糸・織物体験施設の整備
・養蚕・製糸・織物の施設を江戸～昭和期の服装で見学するための着付け場所等の整備
・各構成文化財の展示、解説板の設置
・休息所･トイレ等の便益施設の整備

〇構成文化財の周辺を整備し、当時の歴史的背景を伝えるとともに来訪者の利便性向上を図る。

構成文化財周辺の当時の生活や信仰の様子を伝える場所も含めて、回遊路を整備することにより、周遊観光や歴史学習の場としての魅力を高める。また、交通アクセスの向上と周知にも取り組む。

【主な取組イメージ】

・「永井流伝習所」周辺にある養蚕信仰の「穴観音」「蚕稲荷」への見学ルート及び駐車場整備
・周辺景観整備（無電柱化等）
・周辺道路、駅などへの案内板（導入板）の整備

地域も来訪者も元気になる事業

〇日本文化の振興と、それを活かした観光振興を行う。

モデルツアーや日本伝統の着物や食を活用したモデルイベントなどを行うことで来訪者に「かかあ」たちの暮らしを体感してもらうとともに、地域の人々にも再認識してもらう。この外国人にも日本文化体験の機会として魅力を発信する。認定後集中的にモデル事業を実施することで旅行社や民間企業等へ認識の定着を図り、自主的なツアーやイベントが開催されるよう誘導する。

【主な取組イメージ】

・「かかあ」と「絹」に関する体験を盛り込み、宿泊旅行を促進するモデルツアー
・着物を着てのまち歩き、撮影会、その他のモデルイベント開催
・養蚕農家の”おこじはん”（おやつの方言）、おっきりこみの伝統食の提供と農家民泊
・「かかあ天下―ぐんまの絹物語―」関連の紙芝居や養蚕信仰に関連する伝統芸能のイベント開催
・養蚕から織物まで、全ての構成文化財の連携で完成する、絹製の作品製作

〇「かかあ天下―ぐんまの絹物語―」に関連した特産品の開発による地域全体の活性化を図る。

構成文化財及びその周辺での展示解説、体験事業の際に、魅力的な絹製品、桑の葉や繭、絹を活用した菓子やその他特産品の販売を合わせて行うことで、商品開発・産業振興を促進する。大学･高校等

との連携も図っていく。

【主な取組イメージ】

・「ぐんまシルクロード巡り」「かかあ天下巡り」等と題したリレーイベントの開催

・女子大生や女子高生による「かかあ天下―ぐんまの絹物語―」関連商品開発の発表会

・「かかあ天下―ぐんまの絹物語―」ブランドの構築（開発と情報発信）

（２）平成２７年度補助対象事業計画	
① 事業予定額（補助対象経費）	５６，５４６千円

② 補助事業者

協議会等の名称　かかあ天下ぐんま絹物語協議会(仮称)

構成団体　自治体：群馬県、桐生市、甘楽町、中之条町、片品村

民　間：検討中（下記は主な関連団体）

桐生新町まちなみ委員会、“織都桐生”案内人の会、甘楽町観光案内の会、中之条町観光ガイドボランティアセンター、赤岩ふれあいの里委員会、赤岩重要伝統的建造物群保存活性化委員会、片品絹遺産の会、永井流養蚕術伝承会

③ 事業の概要

（Ⅰ）情報発信・人材育成事業　（小計 8,656 千円）

・ホームページ作成費　1,000 千円×1.08＝1,080 千円

・かかあ天下－まち歩き＆体験ガイドブックの作成　40 円×40,000 部×1.08＝1,728 千円

・養蚕風景の映像記録、DVD 化　2,000 千円×1.08 千円＝2,160 千円

・書籍「かかあたちの養蚕日記―お蚕様と暮らした日々－（仮題）」出版

（※下記（Ⅲ）調査研究事業と連動企画、印刷製本費）　1,000 円×1,000 部×1.08＝1,080 千円

・「かかあたちの養蚕日記―お蚕様と暮らした日々－（仮題）」簡略版パンフレット製作印刷費

30 円×20,000 部×1.08＝648 千円

・体験指導ボランティア育成事業　250 千円×４団体＝1,000 千円

・ガイド団体　解説用資材・ユニフォーム支援　240 千円×４団体＝960 千円

（Ⅱ）普及啓発事業　（計 15,290 千円）

・「ぐんまシルクロード巡り」「かかあ天下巡り」（仮題）リレーモデルイベントの開催

1,750千円×4カ所×1.08＝7,560千円

・「かかあ」と「絹」に関する体験を盛り込み、宿泊旅行を促進するモデルツアー

2泊3日　2,240千円×2回×1.08＝4,838千円

・養蚕・製糸・織物体験支援（協力者への謝礼）　180 千円×４団体＝720 千円

・女子大生や女子高生による「かかあ天下―ぐんまの絹物語―」関連商品開発の発表会

（開発支援300千円×4件）＋（設営費900千円×1.08）＝2,172千円

（Ⅲ）調査研究事業　（小計 3,780 千円）

・女性の視点から編纂した蚕糸業史の作成（調査費 1 年目）　2,500 千円×1.08＝2,700 千円

・養蚕・製糸・織物経験者たちの体験談を聞き取り事業

（※上記（Ⅰ）情報発信事業と連動企画、調査費 1 年目）　1,000 千円×1.08＝1,080 千円

（Ⅳ）公開活用のための整備に係る事業　（小計 28,820 千円）

・赤岩重伝建　展示・座繰り・組紐づくり体験設備 *内装･備品　3,000 千円×1.08＝3,240 千円

・永井流伝習所整備事業　7,420 千円×1.08＝8,014 千円

・永井流伝習所周辺整備事業／穴観音・蚕稲荷ルート整備（整備 1 年目）

4,600 千円×1.08＝4,968 千円

・甘楽社小幡組由来碑の覆屋設置　465 千円×1.08＝502 千円

・桐生市　織物等展示場整備事業　ノコギリ屋根工場工事費(改修)及び備品購入 *重伝建外

8,800 千円×1.08＝9,504 千円

・案内板・解説板設置　200 千円×12 件×1.08＝2,592 千円

④ 成果目標

・イベント.体験の参加者数　2 倍以上
・モデルツアー参加者の満足度　80%以上

⑤他の補助金等により実施を計画している事業

機関・団体名	事業名	事業内容	事業費	補助額
文化庁				
		小計		
文化庁以外の省庁				
		小計		
国以外の公的機関、民間団体等				
		小計		
都道府県・市町村				

（様式４）

小計				
合計額				

日本遺産を通じた地域活性化計画

（１）将来像（ビジョン）

群馬県には、絹に関する遺産が数多く残っているだけでなく、養蚕・製糸・織物のすべての段階の産業が現在も脈々と受け継がれている。長きにわたり発達した絹産業により、「おれのかかあは天下一」とたたえられた働き者の女性たちの姿は、地域の生活様式や気性に深い影響を与えている。

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」が絹産業の技術革新と技術交流を切り口としたストーリーであるならば、日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」は絹産業を支えた女性たちのストーリーである。さらに県内各地に存在する「ぐんま絹遺産」を含めた３つのストーリーが、「シルクカントリーぐんま」を体現している。

新たな地域活性化計画は、先進的な女性の活躍や誇るべき絹文化があることを、地域住民や来訪者により深く理解してもらうことで、地域おける絹遺産・絹文化の継承及び絹産業の発展、滞在型周遊観光の創出により地域活性化及び観光振興に資することを目的とする。

絹産業とともに育まれた群馬の「土壌」に、女性活躍の先進地としての誇るべき物語が根付くことで、絹遺産や絹文化に愛着を持って主体的に継承に参画しているプレーヤーの活動の幅を広げることを目指す。また、日本遺産のストーリーを軸に、世界遺産や日本有数の温泉、豊かな自然と新鮮な食材など群馬県の強みを組み合わせ、絹産業とともに生きる人々の「暮らし」や家族と地域を支えてきた女性たちの「仕事ぶり」を体感できる滞在型周遊観光を定着させ、滞在時間の増加、ブランディングされた絹関連製品の消費拡大を目指す。

このことにより、「文化資源の保存・活用」→「観光魅力向上・来訪者の増加」→「地域経済の活性化・絹産業の継続」→「文化資源の保存・活用」という好循環を官民共創で生み出し、「シルクカントリーぐんま」を将来にわたって次世代に引き継いでいく。

（２）地域活性化のための取組の概要

群馬県は、明治の産業革命以降、日本の基幹産業となった絹産業を全県で支えた地域であり、明治の文豪・徳富蘆花が「機の音、製糸の煙、桑の海」と表現するほどであった。日本遺産「かかあ天下―ぐんまの絹物語―」以外にも、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」に代表されるように、県内各地に絹に関連する文化財等が数多く残り、県登録制度「ぐんま絹遺産」に登録されているものだけでも１０５件にのぼる。

また、群馬県は、現在も全国一の養蚕農家数、繭・生糸生産量を誇っており、養蚕、製糸、織物といった一連の絹産業が生きている、日本最大の「シルクカントリー」である。

平成２７年度から令和２年度までの取組を踏まえ、今後３年間は、以下の課題に重点的に取組む。

【課題１】来訪者のさらなる増加、周遊促進
【課題２】絹産業への関心を高め、絹関連製品の消費を拡大

絹産業が長く日本の基幹産業であったことを知らない世代、絹の肌触りや風合いを知らない世代が増える中でも、絹産業を将来にわたって継承発展させ、「理想の繊維＝絹」の価値や、それに従事してきた女性の活躍を継続して発信することが必要である。

また、これまで着実に増加してきた群馬県への観光客数は、新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に減少した。今後３か年は、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けることが予想され、ニューノーマルの実践、「密」を避ける傾向が続くと考えられる。「開放的」で人口も「疎」である「開疎」を群馬の強みと捉え、快適性を加えた「快疎」をテーマに、新たな観光需要の喚起と周遊促進、インバウンド需要回復を見据えた環境整備、コンテンツ制作、情報発信等に取組む。

〈取組方針１〉デジタル技術を活用した絹文化の記録と情報発信

これまでの日本遺産の取組は、「人から人に伝える」を方針に掲げ、ガイド育成やシンポジウム開催、聞き取り調査の実施等を行ってきた。しかし、絹産業従事者の高齢化や担い手の減少が進む中で、今後はデジタル技術を活用した記録及び伝承も進める必要がある。

おしゃれで華やかな着物、色彩豊かな生糸の染色、「養蚕の舞」のような無形民俗文化財などを切り口に、養蚕の作業や生糸の挽き方、織りの技法など、女性たちが代々継承してきた技をデジタル技術で記録する。また、過去の映像資料やこれまでの調査等で明らかになた女性活躍のストーリー再編集し、動画で発信する。

制作したコンテンツは、学校教育等普及啓発事業で活用するとともに、国内外からの誘客促進を図るため多言語化し、プロモーションにも利用する。特に養蚕は季節によって実際に見学及び体験できる内容に限りがあることから、年間を通じて訪れる来訪者に対してストーリーを体感してもらうツールとなる。

事業実施にあたっては、県と認定地域の市町村が、実際に絹産業に携わる地域の人々の情報を共有して取組む。コンテンツは、県立世界遺産センターのＨＰに体系化された日本遺産ページに集約し、アクセス性を高める。また、民間団体の普及啓発イベントや群馬県公式 YouTube チャンネル、県立世界遺産センター公式インスタグラム「きぬ旅」で広く活用、周知を行う。

（主な関連事業）

■VR 等先端技術を活用したシルク体感コンテンツ制作（７－①）
■多言語対応のストーリー発信動画再編集（７－②）
■近代女性「わたしの絹物語」動画制作事業（７－③）
■絹産業に従事した人への聞き取り調査及び動画制作（７－④）

〈取組方針２〉「絹に触れる」滞在型周遊観光の展開

群馬県には、蚕を育てて繭から生糸を挽いたり、絹布を織ったりと一連の絹産業を体験できる民間施設があり、現役の養蚕農家や、製糸工場、機屋の見学も可能で、ストーリーをまさに追体験できる。

また、群馬県には、世界遺産に代表される絹関連遺産や、国内外に知名度の高い温泉地、豊かな自然を生かしたアクティビティ等があり、日本遺産構成文化財の周辺地域に一定数の観光客が来訪している。

この強みを生かし、日本遺産のストーリーを軸に、温泉や食を組み合わせて付加価値を高め、宿泊施設や旅先で絹の美しさに触れることができる観光プランを造成する。

ターゲットは、本日本遺産の主人公が女性であることから、知的好奇心の高い女性とする。

さらに、特に関心の高い層には、自分だけの本物の絹製品を作ることをテーマとし、繭から生糸を挽き、好みの色に染めて織るといった体験を組み合わせることで、複数回の来訪を促すことができる。旅行者の満足度を向上させることで、来訪者自身によるインスタグラム等ＳＮＳでの発信で、リピーター獲得や新たな来訪者増の好循環を作り出す。

また、本物の「絹」「文化」に触れられる観光プランをさらに磨き上げ、県内の外国人旅行者の大多数を占める台湾からの教育旅行や、知的好奇心が高く日本の歴史文化に関心のある欧米豪のインバウンド観光客の獲得につなげていく。

課題となっている二次交通の整備については、上信電鉄や上毛電鉄、ＪＲなどの鉄道各社や、バス、タクシー業者の協力を得て、観光モデルを作成し、将来的には民間での事業化を目指す。

また、ガイドや絹体験の予約を受ける各地域の観光協会や民間団体の連絡先など、来訪者に必要な情報をＨＰに集約し、希望する人が情報にアクセスできるようワンストップ化するとともに、県立世界遺産センター公式「きぬ旅」インスタグラムを活用して情報発信を強化していく。

【プランのイメージ】

○例１「繭から織物までを「学ぶ」ツアー」（団体、教育旅行、個人）

県立世界遺産センター（歴史的背景の学び）→富岡製糸場（施設見学、座繰り体験）→碓氷製糸（解説付き工場見学）→桐生（織物工場、染や織りの体験、織物製品購入）

〈ツアー造成の連携〉

地域連携ＤＭＯの（公財）群馬県観光物産国際協会や、先行して周遊型産業観光の事業化を目指す「シルクカントリーぐんま」産業観光創出協議会と連携し、碓氷製糸株式会社や桐生市内の織物工場、工房の協力を得て、旅行商品化を目指す。

○例２「絹と温泉を堪能するラグジュアリーな旅」（個人、団体）

中之条町六合赤岩地区（養蚕、組紐体験、ガイド散策）→四万温泉（国民保養温泉地「第一号」の「美人の湯」を満喫）

〈宿泊事業者との連携〉

温泉宿で絹と温泉を堪能できるよう、寝具や調度品を絹製品にしたり、シルク成分を含んだ化粧品でのエステ、シルク成分を含んだ食事などを提供してもらう等、県内の温泉協会や宿泊事業社の協力を得て、「美」「ラグジュアリー」をテーマにした宿泊プランを造成する。

（主な関連事業）
■滞在型周遊観光プラン創出支援事業（５－①）
■「シルクカントリーぐんま」産業観光創出支援（５－②）
■構成文化財ガイダンス施設等の多言語解説整備事業（４－①）
■アプリ「きぬめぐり」を活用した周遊スタンプラリー（５－④）

〈取組方針３〉「ぐんまシルク」ブランドの確立

群馬県は、養蚕農家数、繭生産量、生糸生産量で全国一位を誇り、織物の産地桐生をもつことから、繭から生糸にし、染めて織って製品化するまでを地域内で完結できる点が強みである。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、織物販売の減少による産地の買控えが続き、繭生産量、生糸販売高の減少に拍車がかかっていることから、養蚕、製糸業が将来にわたって継承され、生きた絹産業を体感できる地域であり続けることを目指し、農政部局と連携し「ぐんまシルク」ブランドの絹関連製品の需要拡大に取組む。

特に、日本遺産のストーリーを巡った時に、形として残る絹の土産物がほしいという来訪者ニーズを踏まえ、販売ターゲットを女性にしぼった絹関連商品の開発を行う。

川上（養蚕農家）から川下（製品販売店）までをつなぎ、企画にはデザイナーや染織作家などを参画させる等、絹の風合いを生かしたデザイン性の高い商品を開発し、継続した販売を目指す。また、絹は織物のみならず、化粧品や食品にもその成分が使われており、女性に対する訴求力が高いことから、これらを扱う民間企業との連携も強化していく。

事業実施にあたっては、県の蚕糸関係部局や碓氷製糸株式会社、桐生織物協同組合等の協力を得て、実際の産業振興に携わる担い手や地域企業と連携する。販売は、世界遺産や日本遺産など絹遺産に関連する施設、温泉地のほか、オンラインでも行い、持続可能な販売体制を構築する。

（主な関連事業）
■「ぐんまの絹物語」特産品開発プロジェクト（５－③）
■「日本遺産の日」普及啓発イベント（６－①）

（３）自立的・継続的な取組

日本遺産を活用した取組を持続的に実施できるよう、以下の取組を行う。

【戦略・組織】
・取組方針を決定するための定期的な意見交換の場として「かかあ天下ぐんまの絹物語協議会」の総会や、自治体及び民間団体の担当者が情報交換を行う担当者会議を引き続き開催し、自治体の戦略や各種計画を踏まえて事業に取組む。
・協議会構成員の自治体や観光協会と、連携するガイド団体、地域活性化団体が協働し、ボトムアップで観光事業や普及啓発イベントを企画、運営していく仕組みを継続する。
・観光事業の強化に向け、協議会構成員に、地域連携ＤＭＯ群馬県観光物産国際協会を追

加する。体験やガイドをメインとした滞在型周遊観光を推進するため、地域で来訪者を受入れている観光協会や民間団体の情報を集約し、観光客の情報アクセス性を高めるためのＨＰ整備や地域間連携に取組む。

・絹関連製品需要拡大に向けて、県の農政部局や碓氷製糸株式会社、デザイナーや座繰り染織作家らと連携し、令和４年度から女性をターゲットにしたデザイン性の高い商品の開発に取組む。

・日本遺産に係る実態調査は、これまでイベント実施時にアンケート用紙で行ってきたが、即時性、継続性を重視して令和３年度からＷＥＢアンケート方式に変更する。来訪者ニーズを的確に把握し、企画立案に生かす。

・桐生市は、Ｒ２年度に設置した産業経済部観光交流課日本遺産活用室で取組を強化している。日本遺産活用室が中心となり、市内に加え周辺地域と連携した日本遺産事業の充実を図る。

【人材育成】

・認定地域でガイド等を担う民間団体は 10 団体あり、桐生市、甘楽町、中之条町では、有料ガイドによる街並み散策、様々な絹体験の提供が行われている。民間団体による自主企画ツアーや地域イベント、学校での体験学習実施などは、これまでの取組によって既に地域に根付いている。今後は、日本遺産のストーリー全体像をより深く解説できる人材を増やすための研修を拡充し、レベル別認証制度を導入するなど、ガイドスキルの可視化による質の向上、来訪者満足度の向上を目指す。

・地域おこし協力隊等で活躍する若手養蚕農家や、女性の染織作家らと連携して行ってきた調査研究や情報発信事業を継続して実施し、移住定住者を含む若い地域プレーヤーの獲得を目指す。

・高校、大学、民間団体の日本遺産等に関する研究に支援を継続し、絹に関する様々なジャンルのプレーヤーを育成する。

【整備】

・構成文化財の多くは観光面での整備がなされていなかったことから、認定後これまでに基本的なハード面（案内標識や解説板の設置、レプリカ制作、展示室・トイレ等の整備など）及びソフト面（プロモーション用の写真撮影・動画制作、ＨＰ制作、パンフレット・ポスター制作、過去の資料映像のデジタル化など）の整備を行ってきた。

・Ｒ２年度にオープンした群馬県立世界遺産センターに日本遺産コーナーを設置し、映像紙芝居やトピックス展示により、ストーリーの発信強化に取り組んでいる。さらに、今後は周遊観光の拠点としても活用する。また、センターの研究員が進める絹産業で活躍した女性に関する研究の成果を、令和３年度以降の聞き取り調査や動画制作、普及啓発活動に役立てる。

・インバウンド対応を進めるため、ストーリーの社会的、文化的背景が伝わるよう、展示解説をネイティブの視点で多言語化し、外国人向けの公開整備をさらに充実させる。令和４年度は、構成文化財や関連施設の多言語解説文を作成し、令和５年度以降に整備事業、多言語のストーリー発信動画再編集に取組む。

・桐生市ではＲ６年度、中之条町ではＲ７年度の完成を目指し、重要伝統的建造物保存地区内に観光案内や住民交流の新たな情報発信拠点を整備する。各地域の拠点施設に日本遺産コンテンツを充実させることで情報発信強化に取組む。

【観光事業化】

・これまでのモデルツアーや調査結果を踏まえ、様々な絹体験をとおして日本遺産のストーリーを体感することができるよう、旅行プランの提案を行ってきた。今後は、旅行事業者や観光協会、交通事業者等と連携し、日本遺産のストーリーを軸に、温泉や食の要素を組み合わせた滞在型周遊観光商品の造成を目指す。

・群馬県公式アプリ「きぬめぐり」を活用した日本遺産周遊スタンプラリーや、鉄道会社を巻き込んだ地域連携のスタンプラリー、近隣日本遺産と連携した観光誘客を行い、周遊エリア拡大に取組んできた。今後は、観光振興と併せて絹関連製品の需要拡大を図るため、デザイナーや染織作家と連携した女性向けの絹関連製品開発に重点的に取組む。

・絹体験のできる施設をまとめた冊子「しるくめぐり」や、日本遺産構成文化財と周辺の観光地を周遊する旅を紹介したＷＥＢサイト「きぬ旅」を活用し、ストーリーを体感できる旅の情報をＷＥＢ上に集約する。また、各地域で行っているガイドの受付先や周辺の宿泊施設情報なども掲載し、日本遺産観光情報のワンストップ化を図る。

【普及啓発】

・自治体と民間団体とが連携し小中学校で実施している体験学習は、学校の授業プログラムとして定着しており、過去６年間で約１万２千人もの生徒児童が養蚕や座繰り、機織りなど絹体験を経験している。今後も取組を継続するとともに、若い世代の絹への興味関心を高め、将来の絹産業やガイドの担い手育成することを目的に、令和３年度から桐生市で子ども向け日本講座を開始する。

・また、学校団体には世界遺産センターへの来訪を促し、その学習プログラムの中で日本遺産についても発信していく。

・地域で注目されるイベントを実施することは、住民の日本遺産への理解を深め、プレーヤーとしての参画のきっかけ作りとなると考え、認定地域における普及啓発イベントを継続してきた。今後も地域企業等と連携したイベントを継続し、一過性のイベントとならないよう、ＨＰや動画等で開催内容を広く発信する。

【情報編集・発信】

・世界遺産センターＨＰに日本遺産を含めた絹遺産の情報を集約し、利用者のアクセス性を高めている。

・日本遺産構成文化財と周辺観光地を紹介しているウェブサイト「きぬ旅」の公式インスタグラムを活用して、日本遺産や県内の絹遺産をフォトジェニックに紹介し、絹体験を含む旅のプランを提案するなど観光面での情報発信を強化する。

・群馬県公式 YouTube チャンネル「tsulunos（ツルノス）」に日本遺産に関する動画を集約し、統一的な情報発信を行う。

（４）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財の保存活用により、観光魅力向上と来訪者の増加を実現し、地域経済を活性化させることで、さらなる文化財の保存活用を進めるという好循環を官民共創で生み出たすため、以下の取組を実施する。

①周遊観光の確立

構成文化財や関連施設において、女性の姿を感じられる展示解説を拡充し、多言語化などのインバウンド対応を継続して実施することで誘客促進を図る。また、日本遺産のストーリーを軸に、実際に絹に触れる体験と、日本有数の温泉や自然、食などを組み合わせた滞在型周遊観光を確立し、認定地域への来訪者増加、観光消費額増加を図る。

②日本遺産の保存活用を目的とした「ふるさと納税」の活用

群馬県及び桐生市においては、法人からの寄附やふるさと納税の一部を基金化し、日本遺産の保存活用に充てる取組を継続するとともに、寄附額の増加を目指す。また、桐生市では令和３年度から「企業版ふるさと納税」を日本遺産推進事業に活用する。

③まちづくり施策との連携

歴史的風致維持向上計画（桐生市、甘楽町）、重要伝統的建造物群保存地区保存計画（桐生市、中之条町）などと日本遺産を連動させ、周辺地域との一体的なまちづくりを進める。

④継承の担い手を育成

構成文化財を拠点に活動する民間団体の取組を支援することで、地域全体のにぎわいを創出する。各地域で行っている有料観光ガイドの質向上や、学校での普及啓発事業の充実を図り、歴史文化に興味を持つ人を増やすとともに、主体的に文化財や絹遺産、絹産業の継承に参画する人材を育成する。

⑤絹産業の維持発展

群馬県蚕糸技術センターが開発したオリジナル蚕品種を使った生糸、絹製品をブランディングした「ぐんまシルク」や桐生で生産される質の高い織物、化粧品などの絹関連商品の需要拡大を図ることで、群馬の絹産業への関心を高め、養蚕を中心とした絹産業への新規参入をきっかけとした移住・定住者を増やす。

（５）他の観光施策との連携

〇群馬県の総合計画、観光振興計画の状況

群馬県の総合計画ビジョンでは、明治の産業革命に貢献した絹産業と「かかあ天下」で名高い女性の働きが群馬の「土壌」であるとされ、今後の価値創造の軸として位置づけられている。また 10 年間の実施計画においても、世界遺産や日本遺産を含む絹遺産等歴史文化遺産を活用した地域創生や周遊観光の促進を官民共創で進めることに重点が置かれている。

令和３～５年度の県観光振興計画においても、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」に代表される県内の絹遺産は、重要な文化観光資源と位置づけられている。また、複数施設連携スキーム構築や滞在型コンテンツの企画造成などが「新たな観光スタイル」の創出に繋がるとしてニューツーリズム創出支援事業が令和３年度から実施される。

〇世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」との連携

県立世界遺産センターがゲートウェイとなり、「世界遺産」や「絹」に興味を持つ来訪者を県内に取込み、富岡製糸場や他資産、他地域への周遊を促すことを重視し、世界遺産と日本遺産、ぐんま絹遺産の３本柱での観光誘客を強化する。日本遺産のストーリーは、世界遺産富岡製糸場で働いた工女にもつながるものであり、絹産業で活躍した女性の姿や本物の絹に触れられる体験を、新たな滞在型周遊観光のコンテンツとして磨き上げていく。

〇桐生地域

群馬県東部にある桐生市は、栃木県に接しており、栃木県日光市とは「わたらせ渓谷鐵道」で結ばれている。この強みを生かし、隣接するみどり市と連携して日光からの観光誘客に取組む。

また、桐生市の近隣で日本遺産を持つ足利市、館林市の三市で、令和２年度に日本遺産シンポジウムを開催し、「両毛３市連携共同宣言」をするなど連携を進めており、今後観光面での連携を強化する。

〇甘楽地域

認定地域である甘楽町は、織田氏によって造られた群馬県内唯一の大名庭園である国指定名勝「楽山園」をはじめ、城下町の風情を今に伝える武家屋敷や明治期の養蚕農家建造物群の姿を残す小幡の町並み、道の駅「甘楽」、「こんにゃくパーク」のほか、富岡製糸場からも車で１０分程度と近く、集客力のある施設がそろっている。

道の駅「甘楽」敷地内の松井家住宅で定期的に開催している座繰り・繭クラフト体験、民間団体が企画する桑の実摘み体験イベントなど日本遺産関連事業をより積極的に周知し、集客施設等からの誘客を図る。

〇中之条地域

町内にある国登録有形文化財「旧太子駅」などの文化財を活用し、日本遺産構成文化財との周遊観光促進に重点的に取組む。また、温泉地に近い中之条町のメリットを生かし、中之条観光協会や地域ＤＭＯの（一社）草津温泉観光協会と連携して、草津、四万、沢渡、尻焼温泉への宿泊客をターゲットに誘客を図る。

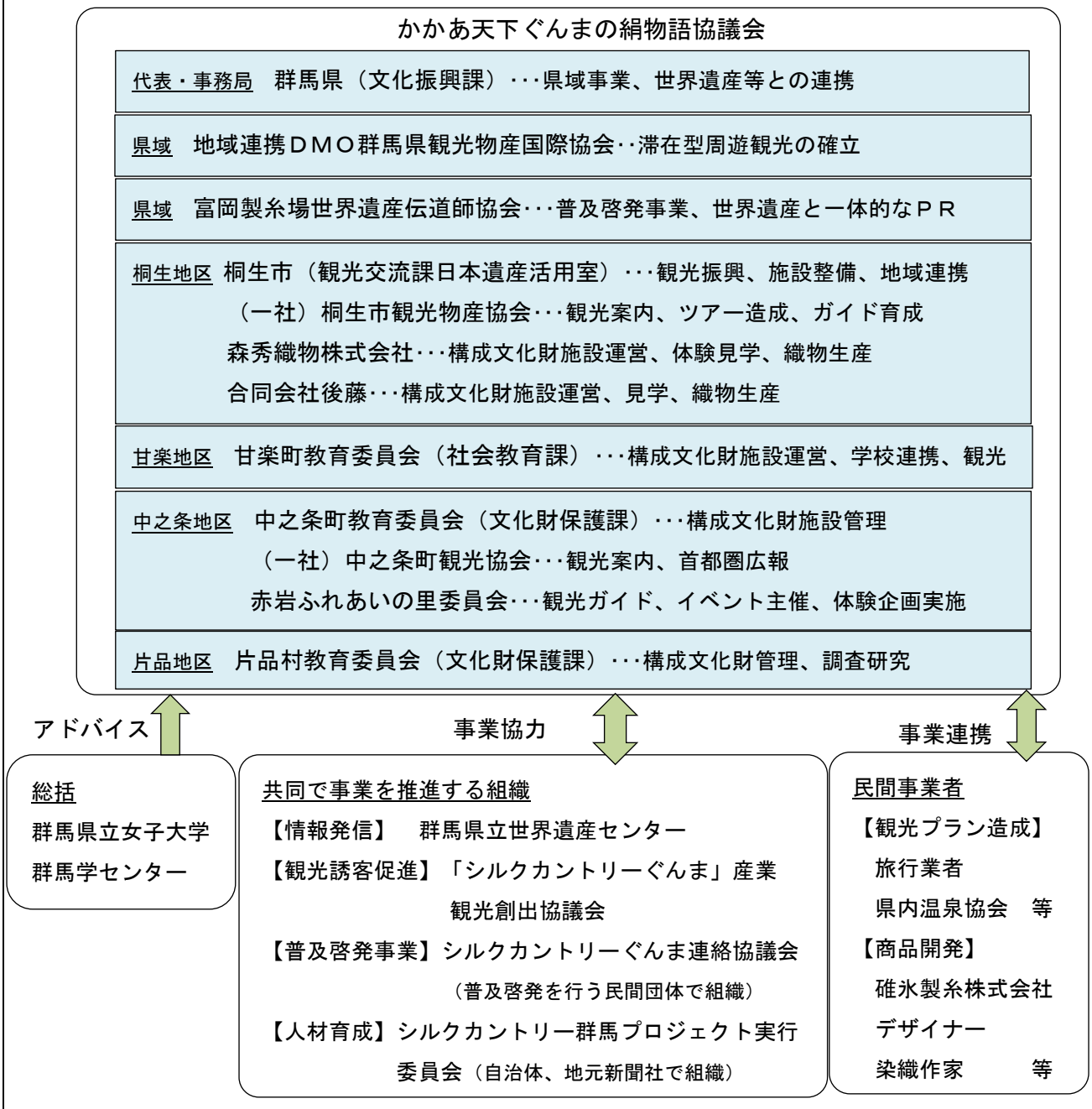
〇片品地域

認定地域の片品村は、全国的に有名な国立公園・尾瀬や、フルーツ狩りや農業体験を含む農泊など、自然環境を生かした観光が盛んな地域である。年間約 10 万人が訪れる温泉施設で展示する構成文化財「永井いと像」を生かし、期間限定の企画展示や、道の駅「尾瀬かたしな」での展示ブース新設などを行い、自然体験に歴史体験をプラスした旅を提案していく。

（６）実施体制

これまで同様、協議会が中心となり、地域活性化計画に基づく取組を実施し、構成員や関係団体の事業の方向性を統一、調整する。また、年に複数回、地域振興部局、観光部局を巻き込んで開催している担当者会議を継続して実施し、実務者レベルの連携を強化する。必要に応じて、観光促進や商品開発といった目的別のワーキンググループを設置し、官民共創での施策検討を行う体制を整える。また、各地域で活動する県民団体と協働し、学校等での子ども向け普及啓発事業や、地域行事を継続して実施し、絹文化継承に取組む。

なお、観光事業化の取組を重視する観点から、地域連携ＤＭＯ群馬県観光物産国際協会を協議会構成員に追加し、協議会構成員である観光協会や民間事業者と連携し、滞在型周遊観光の創出に取組む。



［民間事業者との連携］

・地域連携ＤＭＯ群馬県観光物産国際協会を協議会構成員に追加し、各地域の観光協会とや「シルクカントリーぐんま」産業観光創出協議会と事業協力しながら、滞在型周遊観光の推進に取組む。特に、温泉地等の宿泊事業者や温泉協会と連携し、絹をテーマにした新たな宿泊プランの造成を進める。

・協議会構成員でもある、富岡製糸場世界遺産伝道師協会や赤岩ふれあいの里委員会を含む、認定地域で活動する１０団体が行う普及啓発イベントや地域行事を支援し、来訪者の受入体制（ガイド、絹体験提供）整備や地域活性化の取組みを強化する。

・商品開発においては、碓氷製糸株式会社やデザイナー、染織作家、販売店で連携し、デザイン性を重視した絹製品を企画するとともに、オンラインも活用して、継続的な販売を目指す。

・上毛新聞社と連携した人材育成事業として絹に関する研究（歴史文化、女性活躍、観光、地域振興等）を支援し、研究成果を地域に還元する。

（７）地域活性化計画における目標と期待される効果

期待される効果	先進的な女性の活躍や誇るべき絹文化があることを、地域住民や来訪者に理解してもらうことで、地域おける絹遺産・絹文化の継承及び絹産業の発展、滞在型周遊観光の創出により地域活性化に資する。

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
観光客入込み数	具体的な指標：構成文化財関連施設への入込み客数					
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
数値（人）	219,130	209,149	109,813	150,000	175,000	200,000
目標値の設定の考え方及び把握方法	令和２年度実績（109,813 人）を踏まえ、コロナ前の令和元年度実績（209,149 人）と同程度へ戻ることを目指して目標値を設定。					
関連事業	４－③～⑤、５－⑤～⑦、７－①～②					

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
外国人観光客数	具体的な指標：群馬県に宿泊する外国人の数					
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
数値（人）	289,400	292,490	53,780	130,000	210,000	300,000
目標値の設定の考え方及び把握方法	群馬県観光振興計画（案）に記載されている目標値から引用。					
関連事業	４－①、５－①～②、５－④～⑦、７－②					

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
宿泊者数	具体的な指標：群馬県への宿泊者数					
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
数値（人）	8,305,480	8,648,440	未集計	8,750,000	8,850,000	8,950,000
目標値の設定の考え方及び把握方法	群馬県観光振興計画（案）に記載されている目標値から引用。					
関連事業	５－①～②、５－④～⑦					

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
観光消費額	具体的な指標：群馬県内の観光消費額					
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
数値（億円）	2,746	2,845	未集計	2,925	3,005	3,090
目標値の設定の考え方及び把握方法	群馬県観光振興計画（案）に記載されている目標値から引用。					
関連事業	５－③					

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
地域の文化に誇りを感じる住民の割合	具体的な指標：群馬県のことを誇りに思っており、県外の人に自慢できる県民の割合					
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
数値（%）	62.8	62.1	未公表	64.5	67.0	69.5
目標値の設定の考え方及び把握方法	群馬県が実施する県民幸福度アンケート（令和元年までは県民意識調査）の令和元年度の実績値（62.1%）を基準に、毎年度 2.5%ずつ増加することを見込んで設定。					
関連事業	２－①、６－①～⑦、７－①～④					

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
日本遺産の認知度		具体的な指標：「かかあ天下－ぐんまの絹物語－」の認知度				
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
数値（%）	－	70	－	73	77	81
目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産関連イベントでの令和元年度実績値（約 70%）を基準に、対前年度比で５%ずつの伸び率を設定。（令和３年度以降は群馬県が実施する日本遺産Ｗｅｂアンケートで計測）					
関連事業	２－①、６－①～⑦、７－①～④					

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
養蚕新規参入者		具体的な指標：養蚕業に新規参入した経営体の数（累計）				
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
数値	－	23	25	27	30	33
目標値の設定の考え方及び把握方法	令和２年度までの養蚕への新規参入実績を基準に、年間３経営体ずつ参入者が増えることを目標に設定。実績は群馬県蚕糸園芸課で把握。					
関連事業	５－③、７－④					

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
民間団体との協働日数		具体的な指標：日本遺産関連の普及啓発イベント等協働日数				
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
数値（回）	６５	６９	３４	３５	４５	６５
目標値の設定の考え方及び把握方法	令和２年度実績（27 回）を踏まえ、コロナ前の令和元年度実績（69 回）と同程度へ戻ることを目指して目標値を設定。					
関連事業	５－⑤、５－⑦、６－②～④					

設定目標Ⅲ：日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立						
地域プレーヤー数		具体的な指標：ガイド及び普及啓発団体等の会員数				
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
数値（人）	394	375	355	360	360	360
目標値の設定の考え方及び把握方法	高齢化等による会員数減少傾向を踏まえ、新しい人材を養成により現在の会員数(360 人程度）を維持することを目標に設定。					
関連事業	３－①、５－⑤、５－⑦、６－②～④					

設定目標Ⅲ：日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立						
寄附金額		具体的な指標：日本遺産を対象に含む寄附金額（ふるさと納税含む）				
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
数値（円）	3,846,706	3,830,859	3,460,477	3,564,000	3,671,000	3,781,000
目標値の設定の考え方及び把握方法	令和２年度の実績値（3,460,477 円）を基準に、対前年度比で約３%ずつの伸び率を設定（千円未満切捨て）。					
関連事業	１－①～②					

設定目標Ⅲ：日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立						
絹製品需要拡大		具体的な指標：「ぐんまシルク」取扱店舗数（累計）				
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
数値（件）	－	－	20	50	80	120
目標値の設定の考え方及び把握方法	県内主要温泉地の旅館やホテルの他、国の観光支援事業協力店を対象に取扱店を拡大する。実績は、群馬県旅館ホテル生活衛生同業組合で把握。					
関連事業	５－②～④、６－①					

設定目標Ⅳ：その他						
子ども向け普及啓発活動	具体的な指標：子どもを対象にした絹体験学習等受講者数					
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
数値（人）	1,518	2,332	1,863	1,900	1,950	2,000
目標値の設定の考え方及び把握方法	令和２年度の実績値（1,863 人）を基準に、対前年度比で約 2.5%ずつの伸び率を設定。					
関連事業	６－④					

（８）地域活性化のために行う事業

（８）－１　組織整備

（事業番号１－①）

事業名	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会の運営		
事業内容	日本遺産推進母体として、かかあ天下ぐんまの絹物語協議会の運営を継続する。総会や実務者レベルの担当者会議に加え、新たな地域活性化計画推進のためのワーキンググループを開催する。また、自治体や民間団体が行う日本遺産事業の全体調整、進捗管理などを行う。その他、補助金申請や日本遺産サミット等イベント、ＨＰ等での情報発信、地域間連携事業を行う。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	ふるさと納税額	具体的な指標	自治体へのふるさと納税
実績値	平成 30 年度：3,846 千円　令和元年度：3,830 千円　令和 2 年度：3,460 千円		
目標値	令和 3 年度：3,564 千円　令和 4 年度：3,671 千円　令和 5 年度：3,781 千円		
事業費	令和３～５年度：４０千円（負担金分）		

（事業番号１－②）

事業名	絹に関する歴史文化遺産を生かす官民共創コミュニティ事業推進		
事業内容	群馬県が進める官民共創コミュニティ育成事業において、日本遺産を含む絹にとともに育まれた歴史文化を生かした地域創生をテーマにプロジェクトを立ち上げ、共感した人や企業、民間団体とともに地域づくりや魅力発信を推進する体制を整備する。		
実施主体	群馬県知事戦略部戦略企画課、かかあ天下ぐんまの絹物語協議会		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	個人サポーター、法人パートナー数	具体的な指標	日本遺産事業への協力者数（累計、ガイド等含む）
実績値	平成３０年度：－　令和元年度：３５３人　令和２年度：３６５人		
目標値	令和３年度：３７０人　令和４年度：３７５人　令和５年度：３８０人		
事業費	令和３年度：－　令和４年度：－　令和５年度：－		

（８）－２　戦略立案

（事業番号２－①）

事業名	WEB アンケートによるマーケティング調査		
事業内容	これまでの紙ベースのアンケートを改め、分析の即時性や効率性を重視した WEB アンケートを導入する。来訪者や地域住民など、ターゲット別のアンケートを定期的に実施することで、日本遺産のストーリー認知度や来訪者ニーズ等の課題を的確に把握し、事業計画や自治体の各種計画の改善、見直しに役立てる。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（群馬県）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	ストーリー認知度
実績値	平成３０年度：－　　令和元年度：約７０％　　令和２年度：－		
目標値	令和３年度：７３％　　令和４年度：７７％　　令和５年度：８１％		
事業費	令和３～５年度：各８４５千円		

（８）－３　人材育成

（事業番号３－①）

事業名	日本遺産ガイドプロフェッショナル研修及び認証制度導入		
事業内容	日本遺産のストーリーに精通したプロフェッショナルガイドを養成するための研修を実施し、レベル別の認証制度によりガイドスキルを可視化する。日本遺産構成文化財をもつ市町村で定期的に実施している解説ガイド養成研修に加え、専門講師による歴史文化講座、アナウンサーなどトーク力向上研修等を行い、ガイド人材のレベルアップを目指す。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（群馬県、桐生市、甘楽町、中之条町）		
事業期間	令和３年度～５年度		
事業評価指標	地域プレーヤー数	具体的な指標	ガイド及び地域活性化団体会員数
実績値	平成３０年度：３９４人　令和元年度：３７５人　令和２年度：３５５人		
目標値	令和３年度：３６３人　　令和４年度：３７２人　令和５年度：３８１人		
事業費	令和３～５年度：各１７５千円		

（８）－４　整備

（事業番号４－①）

事業名	構成文化財ガイダンス施設等の多言語解説整備事業		
事業内容	滞在型周遊観光のターゲットとする欧米豪のインバウンド客にストーリーの社会的、文化的背景を分かりやすく伝えるため、ネイティブのライターに、実際に構成文化財を訪ねてもらい、女性の「暮らし」や「仕事ぶり」に着目した展示解説やストーリー紹介文を作成してもらう。観光庁の地域観光資源の多言語解説整備支援事業を活用する。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（群馬県）		
事業期間	令和４年度～令和５年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	外国人宿泊者数
実績値	平成 30 年度：289 千人　令和元年度：292 千人　令和２年度：53 千人		
目標値	令和３年度：130 千人　令和４年度：210 千人　令和５年度：300 千人		
事業費	令和４～５年度：各２，０００千円		

（事業番号４－②）

事業名	六合赤岩重伝建地区　湯本家改修及び案内所整備		
事業内容	重要伝統的建造物群保存地区保存計画に基づき町が取得した地区内のシンボル・湯本家を改修し、新たな案内所として活用する。令和 7 年度までの完成を目指し、令和 3 年度は耐震工事や具体的な活用計画策定、R4～6 年度に改修工事を行う予定。(R2～7 年度：124,991 千円)		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（中之条町）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	関連施設への入込み客数
実績値	平成 30 年度：219 千人　令和元年度：209 千人　令和２年度：109 千人		
目標値	令和３年度：150 千人　令和４年度：175　人令和５年度：200 千人		
事業費	令和３年度：１１，０３０千円　令和４年度～１１３，９６１千円		

（事業番号４－③）

事業名	桐生新町重伝建地区公開施設整備		
事業内容	市が取得した重要伝統的建造物群保存地区の伝統的建造物を改修し、日本遺産を含む重伝建地区の拠点としての機能（情報発信、コミュニティとしての場など）を強化する。令和 3 年度に実施設計を行い、令和 4 年度および令和 5 年度に工事、令和 6 年度の開館を目指す。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（桐生市）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	関連施設への入込み客数
実績値	平成 30 年度：219 千人　令和元年度：209 千人　令和２年度：109 千人		
目標値	令和３年度：150 千人　令和４年度：175　人令和５年度：200 千人		
事業費	令和３年度：１２，８３４千円　令和４～５年度：未定		

（事業番号４－④）

事業名	低速電動バス「ＭＡＹＵ」運行		
事業内容	低速電動コミュニティバス「ＭＡＹＵ（まゆ）」により、桐生新町伝建地区やその他市内構成文化財を含む市内観光スポットの周回コースの運行することで、周遊を促進し、観光客の滞在時間増加、入込み客数増加を目指す。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（桐生市）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	関連施設への入込み客数
実績値	平成 30 年度：219 千人　令和元年度：209 千人　令和２年度：109 千人		
目標値	令和３年度：150 千人　令和４年度：175　人令和５年度：200 千人		
事業費	令和３～５年度：各６，２００千円		

（８）－５　観光事業化

（事業番号５－①）

事業名	滞在型周遊観光プラン創出支援事業		
事業内容	繭から織物までの工程を体験しながら学ぶツアーや、美しさを追求する絹と温泉を堪能するラグジュアリーなツアーなど、女性をターゲットとした体験メインの観光プランを創出する。令和３年度は、課題となっている二次交通の整備を含め、地域連携ＤＭＯ（公財）観光物産国際協会や旅行業者と共同でプランを検討し、４～５年度はプランの磨き上げ、インフルエンサー等発信力のある方によるプラン提案を行う。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（群馬県）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	宿泊者数	具体的な指標	群馬県への宿泊者数
実績値	平成３０年度：8,305 千人　令和元年度：8,648 千人　令和２年度：―		
目標値	令和３年度：8,750 千人 令和４年度：8,850 千人 令和５年度：8,950 千人		
事業費	令和３～５年度：各１，３００千円 ※文化遺産観光拠点充実事業の活用を希望		

（事業番号５－②）

事業名	「シルクカントリーぐんま」産業観光創出支援		
事業内容	観光振興による群馬県産の絹製品の需要拡大を目指し、地元タクシー業者と連携した世界遺産「富岡製糸場」と現役製糸工場「碓氷製糸株式会社」をつなぐ定期運行モデルコースを運営する。碓氷製糸と周辺観光地を周遊するコースを造成し、絹をテーマにした産業観光を提案する。		
実施主体	「シルクカントリーぐんま」産業観光創出協議会		
事業期間	令和３年度～令和４年度		
事業評価指標	観光消費の拡大	具体的な指標	ぐんまシルク取扱店舗数（累計）
実績値	平成３０年度：　－　　令和元年度：　－　　令和２年度：２０件		
目標値	令和３年度：５０件　　令和４年度：８０件　令和５年度：１２０件		
事業費	令和３～４年度：１，５４０千円		

（事業番号５－③）

事業名	「ぐんまの絹物語」特産品開発プロジェクト		
事業内容	川上（養蚕農家）から川下（製品販売店）までをつなぎ、企画にはデザイナーなどを参画させることで、デザイン性と質を両立させ、継続した販売を見込める商品の開発支援を行う。地域内で定着している「ぐんまシルク」ブランドで販売するなど、絹遺産関連施設のほか、県内温泉地やオンラインでの販売を目指す。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会		
事業期間	令和４年度～令和５年度		
事業評価指標	観光消費の拡大	具体的な指標	ぐんまシルク取扱店舗数（累計）
実績値	平成３０年度：　－　　令和元年度：　－　　令和２年度：２０件		
目標値	令和３年度：５０件　　令和４年度：８０件　令和５年度：１２０件		
事業費	令和４～５年度：各５００千円 ※文化遺産観光拠点充実事業の活用を希望		

（事業番号５－④）

事業名	アプリ「きぬめぐり」を活用した周遊スタンプラリー		
事業内容	平成３０年度に制作した県内の絹文化に関するスポットを紹介するアプリ「きぬめぐり」を活用し、宿泊業者や飲食業者を巻き込んだ周遊スタンプラリーを実施する。景品には、地域企業の絹製品や「ぐんまシルク」ブランド製品を採用する。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	関連施設への入込み客数
実績値	平成 30 年度：219 千人　令和元年度：209 千人　令和２年度：109 千人		
目標値	令和３年度：150 千人　令和４年度：175　人令和５年度：200 千人		
事業費	令和３～５年度：１，０２５千円		

（事業番号５－⑤）

事業名	道の駅「甘楽」での座繰り・繭クラフト体験		
事業内容	甘楽町の日本遺産構成文化財から徒歩圏内の道の駅「甘楽」（松井家住宅）において、毎月定期的に座繰り体験と繭クラフト体験を開催する。富岡製糸場からの誘客を図り、町内構成文化財への周遊を促進する。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（甘楽町）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	関連施設への入込み客数
実績値	平成 30 年度：219 千人　令和元年度：209 千人　令和２年度：109 千人		
目標値	令和３年度：150 千人　令和４年度：175　人令和５年度：200 千人		
事業費	令和３～５年度：１５０千円		

（事業番号５－⑥）

事業名	首都圏での観光ＰＲ		
事業内容	東京都内に会場を借り、観光関係事業者を招き、日本遺産構成文化財をもつ桐生市、館林市、足利市の３市長によるトップセールスを行う。首都圏からの観光客誘致を狙い、観光関係事業者へ日本遺産を中心とした地域の観光資源を PR することで、ツアー造成などに繋げていく。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（桐生市）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	関連施設への入込み客数
実績値	平成 30 年度：219 千人　令和元年度：209 千人　令和２年度：109 千人		
目標値	令和３年度：150 千人　令和４年度：175　人令和５年度：200 千人		
事業費	令和３～５年度：２７０千円		

（事業番号５－⑦）

事業名	桐生日本遺産ツアー、スタンプラリー、市民向け講座の実施		
事業内容	日本遺産への関心を高め、実際に訪れてもらうことを目的に、「日本遺産めぐりバスツアー」や「日本遺産講座」、ガイド団体「“織都桐生”案内人の会」が企画するツアーを実施する。また、子どもをターゲットに、夏休み期間にアプリ「きぬめぐり」で日本遺産周遊スタンプラリーを開催したり、将来のガイド人材育成のための日本遺産講座を実施する。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（桐生市、桐生市観光物産協会）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	観光客数	具体的な指標	関連施設への入込み客数
実績値	平成 30 年度：219 千人　令和元年度：209 千人　令和２年度：109 千人		
目標値	令和３年度：150 千人　令和４年度：175　人令和５年度：200 千人		
事業費	令和３～５年度：７１０千円		

（８）－６　普及啓発

（事業番号６－①）

事業名	「日本遺産の日」普及啓発イベント		
事業内容	令和３年度は、桐生市の有隣館（重伝建地区内）をメイン会場に、織物協同組合と連携した地域企業の製品展示販売、日本遺産認定地域の特産品販売、ストーリーを語るパネルディスカッション等を実施する。令和４年度以降も、認定地域において継続して実施し、日本遺産の普及啓発と絹製品の需要拡大を図る。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（群馬県、桐生市）		
事業期間	令和３年度		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	ストーリーの認知度
実績値	平成３０年度：－　　令和元年度：約７０％　　令和２年度：－		
目標値	令和３年度：７３％　　令和４年度：７７％　　令和５年度：８１％		
事業費	令和３～５年度：各２，０００千円		

（事業番号６－②）

事業名	シルクカントリーぐんまキャンペーン		
事業内容	イオンリテール株式会社の資金及び会場提供を受けて開催する絹文化継承を目的とした普及啓発イベントにおいて、日本遺産のストーリーを発信する。民間団体が企画する絹体験をメインに、大人から子どもまで楽しめる内容とする。		
実施主体	シルクカントリーぐんま連絡協議会		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	民間主導イベントの数	具体的な指標	地域での絹体験イベント参加者数
実績値	平成３０年度：4,633 人　令和元年度：2,773 人　令和２年度：318 人		
目標値	令和３年度：1,100 人　　令和４年度：1,900 人　令和５年度：2,700 人		
事業費	令和３～５年度：各５００千円		

（事業番号６－③）

事業名	赤岩ふれあい感謝祭		
事業内容	構成文化財の六合赤岩重要伝統的建造物群保存地区において、「赤岩ふれあい感謝祭」を県民団体と町が協働で開催する。養蚕や座繰り、組紐、繭クラフト体験など来場者が楽しめるイベントや物販を企画する。		
実施主体	赤岩感謝祭実行委員会、かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（中之条町）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	民間主導イベントの数	具体的な指標	地域での絹体験イベント参加者数
実績値	平成３０年度：4,633 人　令和元年度：2,773 人　令和２年度：318 人		
目標値	令和３年度：1,100 人　　令和４年度：1,900 人　令和５年度：2,700 人		
事業費	令和３～５年度：５００千円		

（事業番号６－④）

事業名	学校教育と連携した普及啓発事業		
事業内容	自治体と民間団体が連携して小中学校での座繰り、繭クラフト、織物体験授業を実施する。若い世代に絹を身近に感じてもらい、地域への愛着を醸成し、将来にわたって絹文化を継承する。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会（群馬県、甘楽町）、桐生市教育委員会		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	子ども向け学習体験実施数	具体的な指標	体験学習の受講者数
実績値	平成３０年度：1,518 人　令和元年度：2,332 人　令和２年度：1,863 人		
目標値	令和３年度：1,900 人　　令和４年度：1,950 人　令和５年度：2,000 人		
事業費	令和３年度～令和５年度：各５００千円（桐生の予算額確認中）		

（事業番号６－⑤）

事業名	民間集客施設での女性養蚕指導者「永井いと」展示		
事業内容	構成文化財「永井いと像」を展示している花の駅「片品・花咲くの湯」及び道の駅「尾瀬かたしな」で、観光客が多く訪れる尾瀬や天王桜の観光シーズンに合せた期間限定の展示を企画する。展示では、既存の製作物のほか、ドローンで撮影した地域の見所動画等を紹介する。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（群馬県、片品村）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	ストーリーの認知度
実績値	平成３０年度：－　　令和元年度：約７０％　　令和２年度：－		
目標値	令和３年度：７３％　　令和４年度：７７％　　令和５年度：８１％		
事業費	令和３～５年度：１００千円		

（事業番号６－⑥）

事業名	群馬県立世界遺産センター「セカイト」日本遺産トピックス展示		
事業内容	群馬県立世界遺産センター「セカイト」のトピックス展示コーナーにおいて、絹産業における女性活躍をテーマにした日本遺産トピックス展示を行う。毎年１回、３か月程度の展示期間を予定。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（群馬県）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	ストーリーの認知度
実績値	平成３０年度：－　　令和元年度：約７０％　　令和２年度：－		
目標値	令和３年度：７３％　　令和４年度：７７％　　令和５年度：８１％		
事業費	令和３年度～令和５年度：各１００千円		

（事業番号６－⑦）

事業名	構成文化財「絹撚記念館」企画展開催		
事業内容	年度ごとにテーマを設定し、日本遺産をＰＲを含めた企画展を開催する。令和３年度は、桐生市施行 100 周年記念「桐生の”日本遺産”」、「伝統ある街・桐生」絵画コンクール作品展、「桐生の粋な”通り”、乙な”路地”展」を予定。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（桐生市）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	ストーリーの認知度
実績値	平成３０年度：－　　令和元年度：約７０％　　令和２年度：－		
目標値	令和３年度：７３％　　令和４年度：７７％　　令和５年度：８１％		
事業費	令和３年度～令和５年度：各２２０千円		

（８）－７　情報編集・発信

（事業番号７－①）

事業名	ＶＲ等先端技術を活用したシルク体感コンテンツ制作		
事業内容	養蚕の作業や生糸の挽き方、手織りの方法など、女性たちが代々継承してきた技術や機械の動き等をデジタルで記録し、学校教育等普及啓発事業や各構成文化財での解説、イベント等で活用する。特に養蚕は季節によって実際に見学及び体験できないことから、年間を通じて訪れる来訪者に対してストーリーを体感してもらうツールとする。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（群馬県）		
事業期間	令和４年度～令和５年度		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	ストーリー認知度
実績値	平成３０年度：－　　令和元年度：約７０％　　令和２年度：－		
目標値	令和３年度：７３％　　令和４年度：７７％　　令和５年度：８１％		
事業費	令和４～５年度：各５，０００千円 ※文化遺産観光拠点充実事業の活用を希望		

（事業番号７－②）

事業名	多言語対応のストーリー発信動画再編集		
事業内容	これまでの映像コンテンツ等を活用して、ストーリーと旅のスタイルを提案する紹介動画を再編集し、ガイダンス施設での上映を行うほか、YouTube で国内外に広く発信したり、インバウンド客向けのツアーや商談会などで活用する。動画は事業４-①で制作するネイティブスピーカー作成の解説文を用いて多言語化する。ドローンを活用した俯瞰的な映像や、旅行者目線のカメラを用い、映像で見せる動画とする。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会		
事業期間	令和４年度～令和５年度		
事業評価指標	ウェブサイトのＰＶ	具体的な指標	関連ＨＰのＰＶ数
実績値	平成 30 年度：9,380 件　令和元年度：18,098 件　令和２年度：25,312 件		
目標値	令和３年度：26,000 件　令和４年度：28,000 件　令和５年度：29,000 件		
事業費	令和４～５年度：各３，０００千円 ※文化遺産観光拠点充実事業の活用を希望		

（事業番号７－③）

事業名	近代女性「わたしの絹物語」動画制作		
事業内容	近代において養蚕、製糸、織物の世界に名を残した複数の実在女性に焦点をあて、生き様や縁の地を紹介する動画を制作する。これまで「かかあ天下」の代表として紹介をしていた、構成文化財の「永井いと」に加え、愛知県豊橋市で製糸工場を設立して成功した「小渕しち」など、自らの技術と行動力で社会進出を果たした近代女性のストーリーを発信する。（６名程度、年２本制作予定）		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（群馬県）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	ストーリー認知度
実績値	平成３０年度：－　　令和元年度：約７０％　　令和２年度：－		
目標値	令和３年度：７３％　　令和４年度：７７％　　令和５年度：８１％		
事業費	令和３～５年度：各１，０００千円 ※文化遺産観光拠点充実事業の活用を希望		

（事業番号７－④）

事業名	絹産業に従事した人への聞き取り調査及び動画制作		
事業内容	養蚕、製糸、織物業に従事する人が少なくなる中で、貴重な証言を後世に残し、日本遺産のストーリーをより充実させること目的に、聞き取り調査を実施する。調査内容は、県立世界遺産センターアーカイブに格納するとともに、聞き取りの様子を動画にまとめ、県公式 YouTube チャンネルで広く発信する。		
実施主体	かかあ天下ぐんまの絹物語協議会構成員（群馬県）		
事業期間	令和３年度～令和５年度		
事業評価指標	ウェブサイトのＰＶ	具体的な指標	関連ＨＰのＰＶ数
実績値	平成 30 年度：9,380 件　令和元年度：18,098 件　令和２年度：25,312 件		
目標値	令和３年度：26,000 件　令和４年度：28,000 件　令和５年度：29,000 件		
事業費	令和３～５年度：各１，０００千円 ※文化遺産観光拠点充実事業の活用を希望		